

日本工学会・第7回科学技術人材育成シンポジウム
パネルディスカッション

科学技術人材育成の課題と解決策

パネリスト

高橋 裕(東京大学名誉教授)

飯澤 功(京都市立堀川高等学校企画研究部長)

岸本喜久雄(東京工業大学教授)

藤原章夫(文部科学省初等中等教育局審議官)

コーディネータ

松瀬貢規 (明治大学名誉教授,コンソーシアム副代表)

1

課題として指摘されたことなど

- * 理数好きの子どもたちの裾野拡大,優れた素質を持った児童生徒を発掘しその才能を伸ばす教育を推進すること
- * 「自立する18歳」を育成すること
- * 多くの工学部(土木)の教育は現場から乖離
- * 教育プログラムの深化が必要で,多様化したシナリオ・国際化への対応が急務-高等教育機関-
- * 博士号取得者数の停滞傾向,
- * 修士から博士課程への進学率の減少傾向
- * 我が国のイノベーション力・産業競争力への懸念など

2

科学技術人材育成の課題と解決策の論点

1: 将来を支える科学技術人材の育成に何が必要か, 課題は何か

- ・ 理工系人材のすそ野拡大, 初等中等教育の充実
- ・ 科学技術人材に対して高度化する社会的要請
- ・ 人材の国際流動性の激化

2: 初等中等教育から社会人教育まで, どのように人材を育成するか

- ・ 有能な人材の発掘と活躍環境の整備
- ・ 大学院改革の加速化
- ・ 若手科学技術者・研究者の待遇・処遇・環境改善など

3: 理工学・協会とコンソーシアムへ期待と注文

- ・ パネル討論をまとめるのではなく 質の高い最新の情報を共有し, 意見を交換して次のアクションプランに結び付けたい

3

各パネリストの補足説明及び、フロアから寄せられた主な意見は以下の通り

- ・ 日本の大学院教育は素晴らしいが、企業等の現場とのギャップが感じられ、実践力が不足している点が課題。
- ・ 日中韓の大学間の取組みは大切。欧米他の大学間の取組みについては、短期間の学生交流から始めるとよい。
- ・ 韓国では日本を“近くて偉大な反面教師”と見ている。タテワリは日本の弱点。
- ・ 個人の専門分野を増やすようにするとよい。分野を越えた融合的な知識を持つ人材を育成するのが必要。
- ・ 日本の大学教育はチームワーク力育成に課題がある。
- ・ 高校生から、文理が分かれるので文理融合を難しくしている。受験制度に問題がある。
- ・ 一体感が会社をつぶす時代になった。今後はユニークな発想をする人をより大切に。
- ・ 異なる学部・学科の教員間の交流が殆ど無いのでこれを進めるのがよい。
- ・ 科学技術人材は理系、文系に分ける必要は無いのではないか。

4